

水環境・河川水質 (1-C-09-2～1-C-10-2)

このセッションは「水環境・河川水質」で、内容は、千葉県北総台地の湧水の水質特性(1-C-09-2)、浄化用水と海水が交錯する複雑な河川水系における水質特性～鉛直方向の水質変化～(1-C-09-3)、農畜産業が中心に土地利用がなされている河川水質環境(1-C-09-4)、河川上流域における堆積性有機物の粒径特性の把握(1-C-10-1)、奈良県宇陀川流域の糞便汚染について(1-C-10-2)に関するものであった。

千葉県北総台地の湧水の水質特性については、この地域における河川の硝酸態窒素による汚染が深刻な状況であり、その汚染源の特定を最終的な目標に水質特性に関する調査研究を行ったものである。今後の継続的調査によるデータ蓄積による研究の発展を期待したい。

一方、浄化用水と海水が交錯する複雑な河川水系における水質特性については、富山湾に流失する内川を調査対象に浄化用水と海水とが複雑に入り混じる水域の水質特性の把握を目的として、調査を行った結果が報告された。今後海水による希釈効果をどう評価してこのような河川の管理を行っていくべきかについて提言をいただけたらと期待する。

農畜産業が中心に土地利用がなされている河川水質環境については、北海道における農畜産業を主体とする土地利用がなされている河川水質に関する調査を実施し、過去の調査との比較を通して主に窒素負荷の変動特性を解析したもので、過去に比べてその負荷は減少傾向にあり農用地からの栄養塩の流出が示唆されたことを報告している。過去のデータを含めた解析を論文(調査報告等)にまとめていただけたらと期待する。

河川上流域における堆積性有機物の粒径特性の把握については、河川上流域における堆積性 POM に関する C 量や N 量の頻度の高い計測を通じた化学的特性の把握を行ったものである。多くの計測データが得られており、その分析・解析をより多角的に行って論文にまとめていただけたらと期待する。

奈良県宇陀川流域の糞便汚染については、奈良県内の河川で糞便性大腸菌群が検出された地点が過去に多くあったことを受けて、糞便由来とされる細菌及びその水質を調査し、その関連性を検討したものである。興味深い結果が得られており、今後の継続的調査に期待したい。

(山口大学大学院・理工学研究科 今井 剛)